

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 81
2023.1

TOPICS

1

十川麗美認定遺伝カウンセラーが日本サイエンスコミュニケーション協会年会ベストプレゼン賞を受賞



岡山大学病院臨床遺伝子診療科の認定遺伝カウンセラー十川麗美さんが12月4日、第11回日本サイエンスコミュニケーション協会年会において、遺伝教育の取り組み「遺伝啓発プロジェクト『Genetic Cafe®』」に対しベストプレゼン賞を受賞しました。同賞はサイエンスコミュニケーションを通じて全国の広範な仲間との交流を通じた情報と理念の共有、学術研究の深化などを積極的に進めるための業績を年会で口頭発表をした人の中から、ベストプレゼン賞にふさわしいと判断された方に授与されます。

今回受賞したのは「高校生を対象とした遺伝啓発プロジェクト『遺伝をもっと身近に！ Genetic Cafe®』の実施」で、7月18日に岡山大学鹿田キャンパスで行われました。十川さんは「市民の方々への遺伝啓発を通じて、皆さんのゲノム医療や遺伝に対する関心が高まり、健康管理やがん予防につながることを期待します」と話しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11777.html

TOPICS

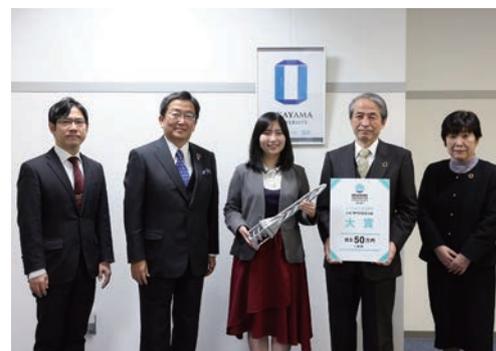
2

本学から3人が受賞！岡山イノベーションコンテスト2022の受賞者が学長へ報告

11月26日に革新的なビジネスのアイデアを競う「岡山イノベーションコンテスト2022」が開催され、ビジネスプラン部門一般の部で学術研究院医歯薬学域の高橋賢助教が大賞、同部門大学・専門学校生の部で大学院教育学研究科の宮本あゆはさんが大賞、経済学部 協田康之亮さんがMASC賞に輝きました。

高橋助教はヒトの臓器機能を再現できるチップを用いて薬剤の効果を評価する手法を、宮本さんは服のコーディネートを他のユーザーが提案してくれるSNS「こーでねーと」を、協田さんは学生と企業をつなぐキャリアカフェ「TsudoiVa」をそれぞれ提案しました。

この受賞を受け、12月21日に高橋助教、協田さん、1月4日に宮本さんが榎野博史学長に受賞を報告。榎野学長は「今回受賞した提案は将来性があり、大学としても積極的にサポートしていきたい」と受賞者の活躍を称えました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11779.html

Pick up!

次世代リーダー・グローバル・サミットOne Young World 2022 日本代表団報告会に本学代表学生が出席しました



9月5～8日に英国・マンチェスターにて開催された「次世代リーダー・グローバル・サミットOne Young World」2022マンチェスター大会の日本代表団報告会が12月5日東京・日本経済新聞社内SPACE NIOで行われ、日本代表団の一員として参加した本学の棚井あいりさん（歯学部5年）が出席しました。

報告会では、現地参加者が国連の持続可能な開発目標SDGsを柱組みとした自身の活動や、現地での体験や得た知見をプレゼンテーション形式で紹介しました。

参加者同士のネットワーキングでは、日本代表団メンバーの交流会もあり、学生、社会人問わず活発な意見交換が行われ、実りのあるフォローアップ会合となりました。

棚井さんは、国際セッションでの討論やワークショップ、ネットワーキングなどに積極的に参加し、平和、環境、ジェンダー、教育、人権、リーダーシップ、グローバルビジネスなど、多岐に渡るテーマについて活発なディスカッションを行いました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11791.html

TOPICS

3

横井篤文上席副学長・ユネスコチェアホルダーが国連平和大学で 開催されたローマクラブ年次総会2022に招待出席しました

12月4、5日に「ローマクラブ年次総会2022」が中米コスタリカの国連平和大学で開催され、横井篤文上席副学長・ユネスコチェアホルダー、兼地球憲章国際審議会委員が現地にて招待参加しました。

12月1、2日には地球憲章国際会議「2022 Earth Charter Conference」が開催され、榎野博史学長、横井上席副学長が招待参加しました。続いて開催された本ローマクラブ年次総会も、地球憲章国際本部らとの共催となりました。

「The Limits to Growth +50: Global Equity for A Healthy Planet」をテーマとし、『成長の限界』出版から半世紀以上の歴史を踏まえて、人類と地球のウェルビーイングのためのグローバルな公平性について活発な議論がなされました。横井上席副学長もローマクラブ副会長のカルロス・アルバレス・ペレイラ氏や、本ローマクラブ委員でロレアル・ユネスコ女性科学賞の黒田玲子東京大学名誉教授らと歓談し、積極的な意見交換をしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11784.html



TOPICS

4

世界初！英国バース大学創設「気候行動バッジ」を 本学グローバル・エンゲージメント・オフィスの教職員が受賞



本学の横井篤文上席副学長・ユネスコチェアホルダー、グローバル・エンゲージメント・オフィスチーフ・オフィサーの原田美樹国際部国際企画課専門員、津波優グローバル・アドミニストレーターが1月6日、英国バース大学が創設した「気候行動バッジ」の最初の受賞者となりました。「気候行動バッジ」は、気候変動の緊急事態に立ち向かう価値ある貢献や先駆的な活動に取り組む教職員や学生ならびに地域、国内、世界で活躍するバース大学の戦略パートナーに贈られます。

横井上席副学長は「本受賞は私たち個人に対してだけではなく、サステナビリティとウェルビーイングを地域と共に全学で推進してきた本学にとって栄誉なこと。また、社会的インパクト評価の先進国でもある英国内トップレベルのバース大学から、評価していただいたことは大変光栄です。さらに地球全体のウェルビーイングの共創に尽力していきたい」と述べました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11799.html

PRESS
RELEASE

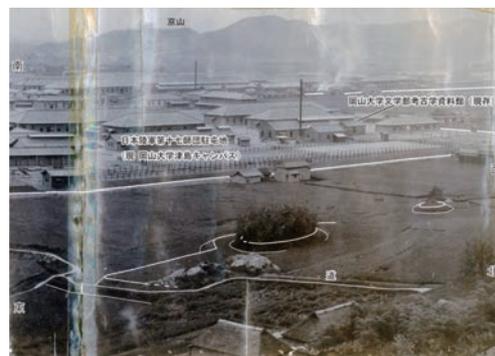
津島で新たに前方後円墳を発見！

2022年3月、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（現 岡山文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門）に陸軍第十七師団造営時の古写真が持ち込まれ、半田山の裾部に前方後円形に地割された高まりがあることを発見。半田山裾部の津島福居には、前方後円墳を含む数基の古墳が群集していたことが知られています。そのうち、お塚様古墳という前方後円墳については、全長約30m、古墳時代中期後葉（5世紀後半）と推定されています。

今回、発見された前方後円形の地割が前方後円墳と認定できるか検証し、結果として前方後円墳と認定することが妥当との結論に至りました。また、お塚様古墳とは別の前方後円墳であることが判明し、「塚前（つかのまえ）古墳」と命名。

文明動態学研究所の野崎貴博助教は「本当に古墳なのか、新発見の前方後円墳なのか、悩みに悩みました。地番の不一致という問題が解けると、次々に問題が解決し、ようやく新発見の前方後円墳という結論にたどり着くことができました」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1040.html



※写真は1908（明治41）年撮影（個人蔵、所蔵者提供）

